

「ジェネリック医薬品の将来を考える会」が 開催されました

2020年6月12日、自民党の議員連盟「ジェネリック医薬品の将来を考える会」（会長：上川陽子衆議院議員）が開催されました。

前半は、「最近の取り組み」について、3名の方から講演がありました。((1)「ジェネリック医薬品の使用促進等に関する厚生労働省の取組」厚生労働省医政局経済課 林俊宏 経済課長、(2)「海外原薬サプライチェーンの課題」日本製薬団体連合会 品質委員会 蛭田修 委員長、(3)「海外原薬の物流の実態」日本薬業貿易協会 藤川伊知郎 会長)

後半は、「医薬品・原薬の国内外におけるサプライチェーンの在り方」について、参加議員を交えて活発な議論が行われました。

その中で、当日示された提言案の3本柱（①医薬品・原薬の国内外におけるサプライチェーンの再構築、②全都道府県で数量シェア80%以上の達成、③「品質に対する信頼性を伴う安定供給への努力」が反映される薬価制度の構築）に加えて、参加議員から「リスクへの対応と国際連携推進の必要性」について、提言の中に追加での記載の強い要望が出ました。

具体的には、国内で重要な医薬品が実際に不足、供給停止してしまった際の「調整メカニズムの構築」や、環境に配慮した原薬等の製造等、「サステナブルな医薬品供給の仕組みの構築」などが提案されました。これについては、上川会長の迅速なご決断によって、その場で提言案に追加される旨が決定しました。

本会では、骨太方針2020に向けた提言案について上川会長一任の上、大筋の了承を得ました。今後は、麻生財務大臣、加藤厚生労働大臣、梶山経済産業大臣に手渡し、提言が骨太方針に少しでも反映される事が目指されます。

（取材：GE薬協総務委員会広報部会）



写真中央：上川陽子会長（2020年6月12日「ジェネリック医薬品の将来を考える会」）